

まぐべつ議会だより 創刊 200 号記念企画

特別インタビュー ～議会だより創刊の思い～

「まぐべつ議会だより」創刊号（表紙写真：左上）が発行されたのは、昭和 45 年（1970 年）8 月。今から 50 年前、旧忠類村でナウマン象の発掘調査をしていた時期と重なります。創刊から 200 号となることから、当時の様子についてお話を伺いたいと、昭和 45 年の町議会議員（26 名）で町内在住のお二人から快諾いただき、インタビューが実現しました。

7 月 13 日、幕別町保健福祉センターの会議室。加藤秀雄さん（96 歳：緑町）、九本榮一さん（88 歳：札内みずほ町）は数十年ぶりに再会され、「加藤さん元気で良かったあ」、「九本さん昔のまんまだ」とお互い笑顔。お話をいただいた一部を掲載します。（聞き手：内山美穂子、荒 貴賀）

Q：当時の議会や議員活動について

加藤さん：戦後、軍隊から帰還した当初、戦争反対の活動を目の当たりにして「命がけて戦ってきたのに、反対とは何事だ」と怒っていたが、勉強を重ね自分の考えは間違っていたことに気付き、議員活動に至った。

九本さん：昭和 42 年の町議選挙は、31 人が立候補、私が町内で初めて車での遊説を行った。40 年代はいろいろな団体設立の動きがあった。労働だけではなく文化活動なども大切にする時代に入った。議会に関しては一般質問での再質問はなく、理事者の意向が強い時代だった。



44 年の議員活動を振り返る加藤さん



議会への期待を語る九本さん

Q：「議会だより」発刊の経緯と創刊号から続く題字について

加藤さん：十勝管内の町村でも「議会だより」を出そうという気運が高まり、議員控室でよく話していた。なかでも一番熱心だったのが斉藤毅雄副議長（創刊号編集委員長）。元陸軍将校で議員のボス的な存在だった。

九本さん：議会の活動が言いっぱなし、聞きっぱなしにならないよう公表することが必要と発刊をした。斉藤副議長は議会のまとめ役で、本人直筆の題字が 50 年継承されたことは幕別町議会の伝統であり誇りだと思う。

Q：創刊から半世紀。感じられることは

加藤さん：支持を得てきたと思っている。私自身も目は達者なので全部目を通してしている。

九本さん：当時は地域の道路や学校を造ってほしいといった陳情行政であった。今は町の課題が多様化し、議員には全般的に幅広く目を向けることが求められている。「議会だより」で議員の活動を知ることができるのは意義深いこと。

Q：現在の町議会、議員に期待することは

加藤さん：選挙は「票」ではなく「心」をいただくことだと意識して真剣に活動してほしい。期待している。

九本さん：どうすれば地域が良くなるか、日頃地域を回って考えることが議員の務め。今の時代は、個人でも役場に行き相談できるので、議員は必要ないという声も聞く。しかし、町の予算や骨格を議決するのは議会、議員にしかできない。議案を審議するだけではなく、その前にやるべき仕事がある。今は新型コロナウイルスの影響で活動も停滞しているが、今後を見据え明るい話題を提供することも議会の役割。誇りを持って活動し信頼される議員になってほしい。



インタビュー終了後に
（左から：荒広報聴取副委員長、九本榮一さん、加藤秀雄さん、内山広報聴取委員長）

編集後記

今号の議会だよりは、第 200 号の節目にあたり特集記事や表紙も企画しました。第 1 号が発行されたのは私が生まれる 10 年前となり、諸先輩方より連綿と引き継がれてきたことに深い歴史を感じます。これからも皆様から親しみの持てるわかりやすい紙面に努めてまいりますので、ご意見などございましたら宜しくお願い致します。

新型コロナウイルス感染症や災害など非常に憂慮されていますが、皆様とともに乗り切ってゆけることを願ってやみません。

小島智恵

議会広報聴取委員会

委員長 内山美穂子 副委員長 荒 貴賀
委員 石川康弘 小田新紀 小島智恵 若山和幸
岡本真利子 酒井はやみ 小川純文

表紙写真募集

No. 201 号（11 月 1 日発行）の表紙写真を募集しています。写真のテーマは「**十勝の秋**」です。応募は、下記の QR コード等によりご応募ください。締切は、令和 2 年 10 月 12 日（月）です。詳しくは、HP をご覧ください。

ご意見をお寄せください

「議会だより」へのご意見・ご感想、「議会」への質問など、皆さんの声をメール、電話（左側に記載）などでお待ちしています。



議会メールアドレス



議会ホームページ